（地一様式３）

施策展開調書

県南地域	No.1

施策の展開方向	地域の特性を生かした活力ある産業の振興
	首都圏との隣接性や恵まれた交通アクセスなどの地域の強みを生かした産業集積により県内製造業の中核地域を目指すとともに、地域資源を最大限に活用した農林業の振興を目指します。

【現状分析】

施策や地域を取り巻く情勢	○国内有数の企業や高い技術を有する企業が多数立地 ○居住人口の減少、空き店舗の増加等による商店街の空洞化が進行 ○若い世代の他の地域への高い流出 ○高齢化や農産物価格の低迷等により、地域の農業生産が減少
主な取組み実績・成果	○県南地域に立地している企業と直接接触し動向把握及び情報収集を行うとともに、立地企業へのフォローアップ強化を図るため、104件の訪問調査を実施した。 ○企業向けの人材育成研修事業の「県南技塾」（金属加工分野16講座、白河商工会議所主催）及び「しらかわものづくり講習会」（メカトロニクス分野28講座、産業サポート白河主催）を実施した。 ○戦略的地域産業高度化事業により、地域における立地企業と地場企業とのネットワークを構築するため、「県南地域企業交流会」を開催した。 ○戦略的産地づくり総合支援事業により、園芸作物や新規需要米等の生産の省力化、高付加価値化等を目指して産地生産体制整備を図った。
今年度の主な取組み	○活力ある商店街支援事業により、商店街の魅力向上のため商店会等が空き店舗対策事業を実施する場合に、市町村を通して補助金を交付する。 ○（新規）ふくしま自治研修センターの共同調査研究事業を活用し、若い世代の流出が著しい県南地方の人口動態の実態等について研究し、県南地方に即した若い世代の定着に向けた施策のあり方や方向性を導き出す。 ○（新規）地域産業6次化ネットワーク推進事業により、農林漁業者と商工業者のネットワークを構築し、情報の共有とマッチングにより、人的交流と連携推進を図るとともに、新たな商品・サービスづくりへの支援を行い、販売キャンペーンを通して商品のブラッシュアップや販売チャンネルの拡大を支援する。 ○（新規）産地生産力強化総合支援事業により、本県の顔となる主要な園芸産地や、地域の実態に応じた特色ある産地づくりを進め、稲作の低コスト化や多様な米づくり、転作作物の生産拡大等に必要な機械・施設等の整備を支援する。 ○森林環境交付金事業により、引き続き県産間伐材の利活用、ペレットストーブの導入等、木質バイオマスの利用促進を図る。

【課題整理】

施策を推進する上での課題	○優良企業の新規立地の伸び悩み ○地域内における企業間のネットワーク確立 ○県産農産物の知名度向上及び自給力向上 ○生活圏や県域を越えた販売チャンネルの確保、多様な需要に対応した分荷、配送機能の確保

【今後の取組みの方向性】

今後の取組みの方向性	○市町村と連携しながら地域の優位性を生かした企業誘致を推進するとともに、立地企業訪問を積極的に実施しフォローアップの強化を図る必要がある。 ○試験研究機関や大学等と連携した技術支援により企業の高度化を図るとともに、企業間ネットワークの形成を促進するための研修会等を積極的に展開する。 ○新たに設定した「ふくしまの恵みイレブン」を中心とした重点品目の生産体制強化と木質バイオマスの利用促進等により農林業の振興を図る必要がある。 ○地域産業6次化ネットワーク等により、多様な主体と連携した商品づくり、販売チャンネルづくりを進める必要がある。

（地一様式3）

施策展開調書

県南地域	No.2

施策の展開方向	地域の持続可能な発展を担い、自らの手で地域を牽引できる人づくり 活力ある地域産業の発展に不可欠な高度の技術を有する人材を確保しながら、地域の将来を自らの手で切り開いていく次代の担い手づくりを進めます。

【現状分析】

施策や地域を取り巻く情勢	○生活習慣病、肥満傾向児等の増加の一方で医師偏在や医師不足の深刻化 ○若年層の減少と高齢化の進行及び若い世代の他の地域への高い流出 ○地域の農業を支える担い手の減少 ○農業短期大学校、看護学校等所在するが産業人材養成の高等教育機関未設置
主な取組み実績・成果	○「いのちの学校」体験事業により、総合的な学習の時間等を活用しながら食・農体験を4小学校で延べ50回実施し食育の推進を図った。また、高校生の妊婦体験・保育体験、中学生及び保護者への研修会・講演会を各1回実施（参加117名）するとともに、思春期保健リーフレットを2種類作成して各7,600部配付し、「いのちの大切さ」を育み、自尊感情の育成を図った。 ○未来（ゆめ）づくり食育推進事業により、未来（ゆめ）づくり食育計画作成支援研修会を3回開催し延べ65人が参加するとともに、食事バランスビンゴカード普及講習会を開催（33人参加）し、次代を担う幼児、児童の望ましい食習慣の定着を図った。 ○森林環境学習推進事業により、森林環境ゼミナールの開催や、市町村等で実施する森林環境学習への支援を12回実施した。
今年度の主な取組み	○県南地域の製造業を対象に、ものづくり基盤の強化と高度化を図る研修事業を産学官連携で実施することにより、製造現場の中核となる人材を育成する。 ○（新規）ふくしま自治研修センターの共同調査研究事業を活用し、若い世代の流出が著しい県南地方の人口動態の実態等について研究し、県南地方に即した若い世代の定着に向けた施策のあり方や方向性を導き出す。 ○（新規）地域医療体験研修事業により、地域医療に関心の高い医学部生を対象に地域医療体験研修を2回実施し、へき地診療所等の地域医療の現場視察や地域住民との交流など体験の場を提供して、将来の地域医療の担い手を育成する。 ○担い手組織等育成支援事業により、地域の農業を担える経営体を育成するため、認定農業者の更なる確保と集落営農組織の高度化や農業経営の法人化に向けた支援を行う。 ○農業短期大学校で、学生への講義、実習等により農業経営に必要となる各種資格・免許の取得、経営感覚・実践力の養成を図るとともに、農業経営者等を対象とした実践的研修を実施する。

【課題整理】

施策を推進する上での課題	○子ども達に体験学習、就労体験等の場を広く提供するため、地域教材として産業、文化、伝統等の情報提供 ○時代の変化に対応できるより高い技術を備えた人材の育成 ○地域医療の担い手確保 ○地域農業の即戦力となる人材の育成

【今後の取組みの方向性】

今後の取組みの方向性	○森林環境学習や農業体験等の取組み支援を行っていくとともに、食育事業について一層の推進を図る。 ○技術の高度化、多様化等の企業ニーズに対応した人材育成を図る必要がある。 ○県立医科大学等と協力、連携しながら、医学部生の体験研修への参加と、医師の地域医療への定着促進を図り、地域の良さのPRに努める。 ○農業短期大学校の機能強化を図るとともに、産業サポート白河、大学、ハイテクプラザ等と連携した人材育成に取り組む。

（地ー様式3）

施策展開調書

県南地域	No.3

施策の展開方向	広域連携による地域内外との交流の促進
	市町村、民間団体、さらにはFIT圏域を含めた隣接地域などとの一層の連携により、広域観光や体験型観光の促進、定住・二地域居住の推進を図ります。

【現状分析】

施策や地域を取り巻く情勢	○着地型観光の関心の高まり、大型観光キャンペーン展開に向けた取組み開始 ○子ども農山漁村交流プロジェクトによる小学生長期宿泊体験の拡大 ○首都圏に隣接し自然環境や立地条件が優れ、定住・二地域居住の潜在的需要 ○国道289号線甲子道路、東北自動車道白河中央IC開通など、交通体系の充実
主な取組み実績・成果	○地域づくり総合支援事業（県戦略事業）により、移住や就農を希望する人を対象とした「農的暮らしセミナー」を8回開催し、延べ200人が参加し都市との交流促進を図った。 ○観光客を呼込むための課題等について、那須や大子町への観光客（2,000人）や管内の観光関係者（172件）に対するアンケート調査を実施し、その結果を分析し、施策展開の方向性について研究を行うとともに、観光PRのための動画を作成した。 ○首都圏で、FIT構想の取組み紹介や、FIT地域の特産品販売などを行うイベント「まるごとFITフェア」を開催し、約4万人の来場者を得てPR活動を行った。 ○地域づくり総合支援事業（サポート事業）の助成により、地域の伝統技能の復活や、地域の文化振興に資する活動と地域資源を活用した広域観光を推進し、地域文化の魅力を発信した。
今年度の主な取組み	○地域づくり総合支援事業（県戦略事業）の子どもいきいき農村ふれあい事業により、広域連携グリーンツーリズム推進協議会と受入窓口を設置し、地域が一体となった受入体制の整備を図り、学校や旅行業者への誘致活動を実施する。 ○県南地方の特産品PRを通じた人材交流、新しい観光のポイントと課題についてのシンポジウム、県南地方PR動画の紹介等を行うためのイベントを開催する。 ○緊急雇用創出基金事業を活用した（新規）東白川定住・二地域居住推進に向けた空き家調査事業により、東白川郡の空き家等の現況調査を行うとともに、二年目となる「福島県県南地方定住・二地域居住相談所ラクラスしらかわ」の相談活動等をさらに推進しながら移住者に関する情報収集や交流拡大等ネットワーク化を図り、定住・二地域居住を推進する。 ○ふくしまの森林文化復興事業により、先人達が育んできた森林と人との関係を次世代へ引き継ぐため、「まほろん」等県内文化施設5館の連携により、「森林文化」を統一テーマとした企画展などを実施する。

【課題整理】

施策を推進する上での課題	○通過観光客の取り込み ○旅行エージェント等による魅力ある回遊ルートの創造 ○歴史的遺産や伝統文化、行事、地域産品等の地域資源の活用と情報発信 ○定住・二地域居住希望者ニーズ把握、移住者等への支援の継続

【今後の取組みの方向性】

今後の取組みの方向性	○行政、観光関係者等が一体となって取り組むためのネットワーク構築の推進を図りながら地域内外の交流拡大に積極的に取り組むとともに、旅行業者等との連携による受入拡大を目指す。 ○FIT構想主要プロジェクトや大型観光キャンペーンの積極的な事業展開を図る。 ○物件情報、移住者情報等の適確な把握に努め、移住希望者等のニーズに的確に対応するなどの地道な取組みにより着実に定住・二地域居住推進を図る必要がある。

（地一様式3）

施策展開調書

県南地域	No.4

施策の展開方向	自然にあふれ人々がいきいきと心豊かに暮らせる源流の里づくり 自然環境の保全や社会基盤の整備により人に優しく住みやすい環境を整えながら、住民誰もが明るく元気な、魅力あふれる地域づくりを目指します。

【現状分析】

施策や地域を取り巻く情勢	○住民、関係市町村、地域環境NPO等との連携による清流の保全、美しい水環境の維持の重要性 ○森林のもつ多面的機能、社会貢献活動、水・農村環境への関心の高まり ○ユニバーサルデザインの普及、公共的施設のバリアフリー化の意識の高まり ○特に東白川郡の高校卒業後の進学・就職等で地域外への流出、高齢化の進展
主な取組み実績・成果	○主要河川の常時監視を実施し、概ね良好な水質を確認するとともに、生活排水対策事業により、市町村設置の「生活排水対策推進指導員」への講習会を開催し、資質向上を図った。 ○森林環境学習推進事業により、森林環境ゼミナールの開催や、市町村等で実施する森林環境学習への支援を12回実施した。 ○医療安全対策事業により、研修会等（6回延べ362名参加）を通して医療従事者の資質向上を図り、医療機関の立入検査を113件実施し、医療安全管理体制の充実を図った。 ○やさしい道づくり推進事業により、白河羽鳥線（白河市道場小路地内）の段差解消、勾配の緩傾斜化、透水性カラー舗装等を実施した。 ○「住民による新たな県民運動円卓会議」構築支援事業により、地域の課題解決の場をモデル的に2件構築し、地域住民や各関係団体等が主体となった地域コミュニティづくりを支援した。
今年度の主な取組み	○元気ふくしま交流促進事業により、久慈川の環境改善及び近接する国道118号、久慈川サイクリングロードの周辺環境整備を図り、地域資源の魅力を高めていく。 ○農地・水・農村環境保全向上活動支援事業等により、地域が一体となった保全活動に支援していく。 ○不法投棄防止総合対策事業により、産業廃棄物等の不法投棄を未然に防止するための対策を実施する。 ○森林整備事業により、手入れが遅れている森林について間伐等の森林整備を実施する。 ○鉄道駅移動円滑化施設整備事業により、新白河駅のエレベーター設置を支援する。 ○地方生活バス路線維持対策事業により、バス事業者の路線バス運行費支援、市町村の生活交通対策事業運行費支援を行い、地域の公共交通の確保を図る。

【課題整理】

施策を推進する上での課題	○産業廃棄物の不法投棄事件の解決に至るまでの長期化 ○医療機関の医療安全に関する認識の共通化、研修の機会確保 ○全ての人が安全に安心して利用できる歩行空間の整備 ○住民の生活に不可欠な公共交通の維持・確保及び交通施設の利便性の向上 ○若年層の減少と高齢化の進行などによる集落機能等の低下

【今後の取組みの方向性】

今後の取組みの方向性	○産業廃棄物の不法投棄を未然に防止するための総合的な対策を推進する。 ○医療機関のネットワーク化及び自主的な取組みにより、職員の資質、医療安全意識の向上を図り、安全・安心な医療を提供する。 ○ユニバーサルデザインの理念の浸透を図るとともに、交通安全施設等を計画的に整備し、人にやさしく、安全に安心して暮らせる道づくりを進める。 ○公共交通の維持・確保、利便性向上のための市町村等への支援及び公共交通事業者への働きかけを行う。 ○コミュニティの維持・再生のため、過疎地域活性化に結びつく活動や活動の実施主体となる人材育成、コミュニティビジネス創出等について支援を行う必要がある。